



災害時に必要な飲料水・食料・生理用品・紙おむつ・医薬品等の備蓄を進行中。

Q 2024年1月1日に石川県能登半島を震源に発生した地震でお亡くなりになられた方にお悔やみを申し上げるとともに、被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。また、今回の地震で、千葉県から現地に入り救助活動を行った職員の皆様の活動、ご苦労に敬意を払いつつ、質問させていただきます。報道では、震災当初、飲料水や生活用水、トイレの水など、避難所生活において水がないことが共通の問題として取り上げられておりました。災害時における水の確保には、県と水道事業者などとの連携が非常に重要であると考えます。また、真冬の寒さへの対応、女性や災害弱者と定義される高齢者、障がい者の方、ペットを連れての避難対策、限られた医療資源の活用についてなど、様々な問題もとりざたされております。そこで、①生活に必要な物資の備蓄状況や、②災害時の応急給水、③避難所での防寒対策、④慢性疾患用の医薬品等の備蓄状況、⑤災害時のペット対策について伺います。

A ①アルファ化米等の食料約51万食、非常用飲料水約26万リットル、生理用品約6万5千枚、紙おむつ約4万5千枚などの物資の備蓄を行っています。不足する場合やその他の品目については、民間企業等との協定による調達や国への支援要請などにより対応することとしています。②県内水道事業者の給水車や仮設給水タンク等の保有状況を予め調査・共有し、災害時には被災事業者の状況等を情報収集したうえで要請に応じ給水車の派遣等の調整を行います。不足する場合には、県外の水道事業者や国等関係機関の協力を得て確保することとしています。③令和4年12月1日現在、県内の指定避難所2,211箇所のうち約76%の1,688箇所で暖房設備が整備されています。避難所や被災市町村で調達できない場合は、協定締結事業者による調達を調整するなど、良好な避難環境の確保に向け支援していく方針です。④救護所用及び病院用に分類したうえで、11,000人分を、県保健所、地域保健センター及び業務課の計16か所に分散備蓄しています。慢性疾患に使用できる医薬品も含まれていますが、局所麻酔薬、抗生物質等の急性期用の医薬品が主体であるため、対応できない場合は、千葉県医薬品卸協同組合に供給の依頼を行うこととしています。備蓄品目については、関係団体等と協議し決定しており、能登半島地震の対応における検証結果等も踏まえ、必要に応じて見直しを図ってまいります。⑤飼い主に対して、平常時のペットのしつけの重要性やトイレ用品やフードなど防災用品の準備について啓発しているところです。また、避難所を開設する市町村に対しては、ペット同行避難の体制整備を促すとともに、衛生面や騒音等の環境面での課題に対して、円滑なペット受け入れのための情報提供をしていく方針です。



※写真はイメージです



※写真はイメージです

すみの意見・要望

先日、自民党青年局にて熊本地震で被害のあった益城町(ましきまち)を視察しました。益城町では薬の確保で薬剤師会の移動薬局に助けられたとのことでした。ご答弁では、備蓄品目に慢性疾患用は限られており、協定に基づき供給を依頼できる体制を整えているとのことでしたが、常時薬を内服しないと死につながる方々もおります。是非とも、慢性疾患薬の確保に平時より備えるよう要望いたします。また、ペットは災害時に被災者の心の支えになる存在です。ペットの同行避難が実施できるよう、市町村との連携強化に取り組んで頂きたいと思っております。



災害時のトリアージに歯科医師を活用。



※写真はイメージです

Q 災害時は、特に医師、看護師などの医療資源も限られており、多くの人の手助けが必要だと考えられます。医師の指示の元、医療知識のある歯科医師が医療チームの一員として災害時に負傷した住民のトリアージに参加できれば、多くの命を救う手助けになるはずです。そこで、災害時のトリアージに歯科医師を活用すべきかどうか伺います。

A 県歯科医師会と災害時の救護活動について協定を締結しており、傷病者に対する応急処置や、避難所における歯科巡回診療等を担っていただくことを業務として定めています。発災時における傷病者へのトリアージについては、現行の協定では想定していませんが、そのような活動内容を拡充することについて、先行する自治体の取組や関係団体の意見などを踏まえて研究していく方針です。

すみの意見・要望

東京都では、医療救護所に重症者、中等者、軽症者などの傷病者が混在しており、医師を中心に歯科医師、薬剤師、看護師などの医療従事者が協力してトリアージを実施する旨が災害時の救護マニュアルに記載されています。災害時には、平時でも乏しい医療資源、医療人材がさらに不足します。日頃から、歯科医師などの医療人が、災害時に被災した県民の医療救護やトリアージを実施できる人材になれるように、県として県の三師会などに働きかけ、東京都の事例からも学ぶことを要望させていただきます。



※千葉県総合救急災害医療センターにて